



府中市長 小野 申人  
 府中商工会議所会頭 北川 祐治さん  
 府中青年会議所副理事長 松本 拓也さん  
 上下町商工会青年部部长 大畑 乃愛さん

皆さんのプロフィールは7ページに掲載

# 新春座談会 70周年から未来へ

～府中市の今・将来のために私たちができること～

令和6年3月31日に市制施行70周年を迎える府中市。まちの発展をけん引する皆さんを招き、まちづくりへの思い、そしてこれからの府中市についてお話しいただきました。

変化の中でも「挑戦」する

**市長** 70周年の節目ということ、まずはこの10年を振り返って、印象に残っていることをお伺いします。特にここ数年は、新型コロナウイルス感染症の流行、ロシア・ウクライナ戦争の影響による燃料や資材の高騰など、事業をされている皆さんにとっては、大変苦労の多い時期だったのではないのでしょうか。

**北川** 特にコロナは、世の中を大きく変えましたよね。

自動車産業を中心とする私たちの仕事で言うと、コロナの流行で人の移動がなくなり、自動車の需要が大幅に減りました。さらにその間に、今度は日本が得意とするエンジンに代わって、EV（電気自動車）化の動きが加速。そのような変化があったので、自動車だけに頼らない事業の展開が必要になりました。

また、リモートワークの普及も変化の一つですね。これまでと変

わり、さまざまな場所で仕事ができるようになりました。ただ、全てリモートで対応できるかという点、意外にそうではなくて。企業というものはチームなので、みんなが寄って議論をすることでいい知恵が出たりするものです。そういう意味では、リモートが普及したからこそ、改めて集まって仕事をするこの大事さも感じました。時代は変わると言われていますが、ここ数年の変化は本当に大きいと思います。

## 逆境をチャンスに変えて

**松本** 2店舗目の美容室をオープンしてすぐに、コロナで緊急事態宣言が出てしまい、正直「やっちゃったな」と思いました。でも、お店を休業することは考えていなかった。何か新しいものを生み出せないかなと思い、青年会議所のメンバーと協力して作ったのが、美容室向けのフェイスシールドだったんです。

コロナ禍で一番困るのが、マスクでお客様の顔や表情が見えず、十分なサービスが提供できないことなんです。首からぶら下げるタイプのフェイスシールドなので、



お客様にはマスクを外してもらい、フェイスシールドを着けたまま髪を切ることができるようになりました。メディアでも取り上げられても、北海道や沖縄など、全国の美容室から問い合わせがあったと聞いています。

大変な中でも、仲間たちと協力して新たなものを作り出すことができたので、コロナ禍はチャンスでもあったと思っています。



## 一度立ち止まって、やりたかったことを形に

**大畑** コロナの流行は、お弁当屋にとって追い風になるだろうと張り切っていました。すぐに小学校が休校になってしまっ。見てくれる人もいないので、子ども3人を家に置いて仕事をしていました。でも、子どもだけで家にいると、だんだん遊びがエスカレートしていくんです。これは子どもたちのために良くないと思い、思い切って一か月の休業を決めました。地域の方には「いやいや、ここでやらないけんじゃろう」と声を掛けられたりもしたんです。

が、やっぱり家族が一番なので、そこはぐっと我慢して。

休業中は、メニューを一から見直したり、以前から作っていた上産生姜の加工品のパッケージを完成させたり、自分がやりたかったことを形にしていく期間にしました。今ですと走りっぱなしで止まるのがなかったので、お店のことをしっかり考える時間が持てよかったです。また、その期間があったから、勢いをつけて再スタートを切ることができたと思っています。

